

クローバーグループ連携事業「俳句」…ちやまを詠む…

第十回 令和三年度秋冬（九月～二月）の部 入賞作品

テーマ 「勝山の四季折々」を詠む

選者 福井県勝山市俳句協会 選者 福井県勝山市俳句協会 選者

石畝 千恵子 福田 みち恵

特選 霧深き勝山城に点る灯よ 岩手県北上市 齋藤 正彦

選評

勝山城は博物館としてこの地に築城されて、既に三十年が経とうとしている。龍をまとったその姿、暗闇に道標を掲げるようなその灯は、今や勝山市のシンボルの一つとなっている。城の「灯」に寄せる想いは、故郷への想いである。

特選 白銀の大師の山は仏抱く 福井県勝山市 齊藤 ケサミ

選評

大師山の麓には越前大仏が鎮座している。その姿は百年、二百年…千年と続くであろう。限りなく四季を繰り返し、山と大仏は一体となる。白銀の大師山は仏様の母体なのである。句柄の大きな作品となった。

特選 ふつくらと茶の花咲くや平泉寺 石川県白山市 森 悦子

選評

初冬に咲く茶の花は小さく可憐で、古来より住居の垣根などにも植えられてきた。平泉寺の坊跡に咲いていたのだろうか。「ふつくらと」という豊かな温かみのある措辞が、多くの坊で賑わった時代の平泉寺の人々の暮らしを思わせてくれる。

入選 もみじふむふんだ先には平泉寺 福井県勝山市 別田 実優

入選 天守へと蕎麦の香飛ばす龍の風 福井県勝山市 梨木 静子

入選 勝山城竜が雪見る三十年 福井県勝山市 木下 絹枝

入選 秋嶺や織機の響くゆめおーれ 福井県越前市 岡田 有旦

入選 未来への想いを紡ぐ冬の糸 福井県福井市 岸 俊行

入選 まゆのたまおおきなごはんつぶにみえ 福井県福井市 はたたくみ

入選は順不同